

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀		
所在地	千葉県千葉市若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念である『その人らしさを追及し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます』を掲げお手伝いをしています。安心・安全なサービスの提供を基本としながら、一人ひとりの生活暦に合った個別ケアに取り組んでいます。高齢化・重度化している中で、主治医や薬局、訪問看護師との連携により信頼と安心できる医療サポートを受けることができ、スタッフは『認知症の状態にある方』の事実を受け止め、感情に配慮しながら有する能力を発揮できるよう、ご本人が負担に感じない、さりげない支援を実践しています。昨年度よりは人員も充足してきており、より入居者様と関わられる時間が持てるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR総武本線 都賀駅から500m程の閑静な住宅街にある2ユニットのグループホームである。昨年4月に就任したホーム長は利用者には安心・安全なサービスを提供するには、職員が重要と考え、職員とのコミュニケーションを大切に、育成にも力を入れている。身体機能低下予防にも取り組んでおり、今年度から体の不自由な方も毎日できる範囲の体操をするようになった。職員間の連携もよく取れており、利用者に対する温かで穏やかな対応は、利用者家族アンケートでも、評価が高く、「寄り添いながら介護してくれる」等感謝の声が多く寄せられている。運営推進会議にも、毎回多くの家族が参加して、活発に意見交換している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしさを尊重し尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます』を掲げています。 毎朝の朝礼や会議の場において唱和しています。	職員で話し合っ、年度毎にスローガンを決め、理念の実践につなげている。今年度のスローガンは「楽しんで 皆で笑おう ほほえみ 都賀」で、まず職員が笑顔で接することで、利用者が穏やかで喜びのある生活を送れるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の盆踊りに参加したり、地域の子供たちがホームでの納涼祭に参加して下さったりしています。 また、玄関前は地域のご高齢の方たちの憩いの場になっています。	ホーム設立以来、納涼祭で地域の子供たちがやまびこ太鼓を演奏し、そこに地域の方も参加している。歌や踊り、傾聴、清掃等ボランティアの訪問も多い。介護実習生の受け入れや中学生の職場体験の受け入れの経験もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際、こちらからご挨拶をすることで、地域の方たちと交流し、認知症の状態にある方へのご理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しています。地域包括やご家族様にて構成され、活動報告や行事報告を行っています。さまざまなご意見を頂戴し、サービスの向上に役立てています。	家族の参加が多いのが特徴で、会議では、ホームの現状、今後の予定等の報告、地域包括からの情報、今後のホーム運営についての意見交換を行っている。家族からの意見も多く、サービス向上に活かしている。	運営推進会議はホームに対する地域の理解と支援を得るためのいい機会であるので、地域代表の参加に向けての工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括の方が参加しており、また、千葉市介護ボランティア制度を積極的に受け入れています。	市担当者とは各種届出や日常の報告、相談等で連絡をとっている。地域包括の職員とは運営推進会議で情報交換しており、利用者の紹介を受けることもある。市のグループホーム連絡会にも参加し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践し、玄関の施錠やベッド柵でベッドを囲んだりの抑制もしないケアに努めています。	全体会議で身体拘束廃止に向けた内部研修を実施し、職員の理解を深めている。命令口調の言葉や制止の言葉にも注意し、身体拘束しないケアの実践に努めている。夜間以外は玄関の施錠もせず、見守りで安全確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内マニュアルに沿って事例集を活用しながら勉強会を開催しています。 外部研修にも積極的にエントリーしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃると思います。その際、成年後見人制度について学ぶ機会がありました。後見人様の面会も定期的であり、必要な情報を提供し、ご安心いただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者、ご家族が抱える不安や心配などを伺いながら、ご理解、ご納得いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況をご報告しご要望を伺っています。また、月1度、スタッフからの直筆のお手紙やホーム新聞をお届けし安心いただいています。また、年1度、顧客満足度調査も行っています。	家族の面会が多く、その時にも意見、要望を聞いているが、運営推進会議に家族の参加が多いので、その際も意見を聞いている。出された意見は申し送り帳等を書いて全職員で共有し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度以上の会議及び、定期的な個人面談の場において意見や提案を募り、反映しています。	毎月の全体会議、ユニット会議および個人面談等で職員の意見、提案を聞いている。日常的に、管理者やリーダーから、職員に声をかけ、意見の収集にも努めている。出された意見はユニット会議等で検討され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者はキャリアアップ制度による昇給があり、また、正社員への登用制度もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未資格者を採用し、働きながら資格取得したスタッフが現在活躍しています。各種社内研修が充実しており、受講を促進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に所属しています。また、地域交流会や勉強会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ケアマネージャーやリーダーが面談させていただき、傾聴することで、ニーズを引き出しています。初期のアセスメントを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームのご見学やご相談を事前に行っていたいただき、ホームで生活していく上での不安や心配、疑問、ご要望を伺い、それに対してご納得いただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前にスタッフ間での情報共有の為の担当者会議を開催しています。まずは、安全に生活できることや、生活に馴染むこと、信頼関係が構築できるよう話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、困難なことをスタッフが把握することで、役割や作業を一緒に行い関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お部屋に写真を飾ったり、日常会話でご家族の話題を織り交ぜ、存在や関係維持を図っています。 ご家族が外出行事と一緒にご参加下さったり、日々の介助の場面にもご家族の支援があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人との年賀状やお手紙のやり取りがあります。ご自宅へ短期外泊される方もいらっしゃいます。	年賀状や手紙のやり取りを支援し、お正月には自宅に戻られる方もいる。家族も大変協力的で、外食や、墓参にも一緒に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の相性もあるので、お互いがご気分を害さぬよう、席次に配慮したり、スタッフが間に入り、関係を取り持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去が決まった際は、ケアマネージャーを中心に今後のご相談、支援を行っています。 また、ご退去後も可能な限り、ご面会に伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりより、ニーズを引き出しご本人の意思の把握に努めています。表現が困難な方には、ご家族のご意向も伺っています。	普段の会話を大切にし、思いや意向の把握に努めている。意思の表現の難しい方には本人の表情や家族からの聞き取りも行っている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日、お仏壇にお水をお供えしたり、昔培った才能に準じた作業や日常的な家事全般において、無理のない範囲で頑張っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画、介護記録を基に、バイタルサイン、排泄状況、食事量、水分量等を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今必要な課題を主治医や薬局、訪問看護師、ご家族と話し合い共有しながら、担当者会議を経て計画書を作成しています。	介護支援専門員は毎月モニタリングを行い、毎月のケア会議で目標に対する評価等を話し合い、次の計画に活かしている。家族には来所時に説明し了解を頂き、来所が難しい方には手紙を添えて郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	着眼する部分を統一することで日々の変化に気づき、より良いケア方法について担当者会議にて検討し、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要とされる福祉用具について専門家のご意見をいただいています。 訪問理容、訪問看護、訪問マッサージの対応も行っています。 また、千葉県オムツ給付事業も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアさんの定期的な訪問や近所の美容室を利用される方もいらっしゃいます。近隣のスーパーへお買い物にも出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回以上の訪問診療以外にも、状態の変化がみられた際は、すぐに主治医へ連絡がとれる体制が整っています。ご希望があればご家族との面談にも応じて下さいます。	月2回の往診時の状態や様子の記録は毎回、医師からFAXされ、必要な方にはお知らせしている。オンコールで何時でも連絡出来、看護師も週一回の訪問が有り、利用者、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度、看護師による訪問があります。日々の状況や気になる事柄において、主治医に報告のうえ、情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、ご本人の状態の把握に努めていただいています。可能な限り面会し、看護師より近況の報告を受けることで現状の把握に努めています。退院時には、医師、PT等からの指導を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に『重度化した場合の指針』をご説明のうえ、ご同意をいただいております。終末期においては、ご家族、主治医、ホームで話し合いのもと、可能な限りご希望に添えるようにしています。	入居時には本人、家族の要望を聞き、重度化や終末期のホームとしての方針を伝え同意を得ている。今年度も3名の看取りを行い、医師、家族、職員が連携良く円滑に行う事ができ、家族からも感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内マニュアルに基き、研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の消防避難訓練を実施しています。	防災管理者が地域の消防団にも属し、先頭を切って訓練に臨んでいる。年2回利用者も一緒に消防避難訓練を行い、備蓄品は水、非常食等3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	節度のある親しみやすい言葉や穏やかな声掛けや方言等、ご入居者様にとって不快を感じさせない工夫をしています。	利用者の希望により苗字、名前、お父さん、部長等親しみやすい呼び方でコミュニケーションを深めているが、その人の立場になって、その人らしさを尊重したケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や献立を決める場面にて意向を伺っています。困難な方については2択で選んでいただいたり工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息したい方、活動したい方など、それぞれに合った準備や支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えはご家族のご協力を得ながら行っています。季節感やご趣味に応じた支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューのご要望を伺ったり、一緒にお買い物の際にリクエストがあったりと柔軟に対応しています。食事形態においても、刻み食やミキサー食にも対応しています。盛り付けや下膳、食器拭き等、能力に応じてお手伝いして頂いています。	現有能力に応じて食事の準備や片付けをお願いし誕生会やおやつ作りも企画され喜ばれている。毎日同じにならないようメニュー表を作りお肉と魚を交互に使い、一汁三菜になるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より1日の水分量の目安の指示があり促しています。メニューカレンダーを作成し、食材が重ならないように工夫しています。また、水分量や食事量を一目で把握できる帳票も使用し、健康管理に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の生活習慣を重んじながら1日2回は行っています。義歯の方は就寝前にお預かりし、消毒を行っています。定期的な訪問歯科による治療・指導も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録等で排泄のサイクルやサインを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう努めています。 羞恥心に配慮した言動を心がけています。	本人からのサインは見逃さず、介護記録からタイミングを見て誘導している。なるべく薬を使用せず、水分量や食物で自立した排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用しなくても自然排便を促せるよう、便秘によいとされる食材や、水分、適度な運動を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはスタッフ主導になってしまっていますが、週に3回以上はお楽しみいただけるよう努めています。 お好みの入浴剤を使用することで、お喜びいただいています。	週3回、ユニット毎に午後入浴を楽しんでいる。幸い男性スタッフが数名いて、二人介助が必要な方にもゆっくり入れるよう入浴剤等を使用し、楽しくリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表現が困難な方には、活動と休息のバランスを見極め、負担のないように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報書は各ユニットにて管理し内容を確認し、変更時には申し送りを行い情報共有に努めています。 服薬にミスが生じないよう、服薬時は2名でのチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力に応じて、得意分野で力を発揮していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年2回は福祉バスや介護タクシーを利用して遠足に行っています。その際はご家族が同伴してくださる場合もあり、良い気分転換となっています。 また、お散歩やお買い物等も可能な限り行っています。	ユニット毎に春と秋に遠足を企画し、家族の同伴もあり、楽しく出掛けている。天気の良い日にはホーム近隣の散歩やホーム前の広場で日光浴やシャボン玉等工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム管理となっていますが、ご本人からのお買い物のご要望があればすぐに持ち出せる体制が整っています。使用した際は、レシートを添付した出納帳をご家族にお届けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙や年賀状のやり取りがあります。連絡先を記した手帳を大切にお持ちになられている入居者様もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を一緒に作成し季節感を感じていただけるよう支援しています。温度や湿度、遮光はスタッフにて管理させていただきます。	どちらのユニットにも小上がりの畳があり、廊下の突き当たりにはソファも用意されている。室温、湿度、採光も調整され、季節を感じる飾りつけ等工夫されている。掃除は毎日行い、日によって丁寧に行う場所を変え、利用者もモップを担当している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりの静かな場所にソファセットを設け、静かな時間を提供できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具やお気に入りの物を、ご家族のご協力のもとお持ちいただき、ご自宅にいるような生活が継続できるよう支援しています。	その人らしい生活の場になっていて、大切な仏壇を持参されている方は毎日、お水を替え手を合わせている。使い慣れた物の持参を願ひし、居心地よく安全に過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームとして設計された建物のため、全館バリアフリーで、手摺りや引き戸等、安全に配慮されています。各居室に表札やトイレに張り紙を施し、自立した生活が送れるように工夫しています。		